

第2回外部評価委員会 議事概要

◆日時:2020年5月26日(金) 13:00~15:00

◆場所:内閣府(中央合同庁舎8号館), web会議

◆出席者:

外部評価委員:秋永委員、小原委員、須藤委員、土井委員、林委員

オブザーバ:上山 総合科学技術・イノベーション会議常勤議員

内閣府事務局

□FIRST 追跡評価報告書について

小原委員:本事業の研究が国際的な水準であったことを分野外の方が理解できるような形で書いた方がよい。

事務局:承知した。

小原委員:世界を凌ぐ、あるいはTopの分野を拓いた、非常に難しい問題を解いたとか、国際的にどういう位置づけになっているかを分かりやすく記載してもらえるとありがたい。

事務局:国際的にどういう位置づけになっているかなど個別の具体的な事例を提示していく。

林委員:1人に高額の予算を支援したので可能になった事を明確にし、それによってTop1%になったという、メカニズムの説明があると良い。柔軟性によってできたこと等、その辺りの説明もアンケートに記載があるようであれば記載いただきたい。民間企業との連携に関しても同様で、もう少し次の制度設計につながるものがあれば良い。

事務局:林先生から今頂いた点で参考にできる具体例がないかアンケートで確認し、ご報告したい。また、ユーザーとの連携もアンケートを再度確認して、具体例を挙げられないか、こちらも併せて報告したい。

小原委員:FIRSTが後押ししたということはきっとあると思うので確認してほしい。

事務局:追跡調査票を再度確認して、該当内容を御報告したい。

事務局:表彰案件について、これは是非報告書に挙げるべきだというような表彰があれば御連絡いただきたい。

小原委員:本事業は国際的なトップを目指すと言っていて、国内の表彰は少し意味が違うと思うの

で、研究開発で国際的に評価されたという表彰事例を出すが良い。

事務局 : 国内の表彰にかなり寄っているので、国際的な観点を踏まえ、もう一度我々もリストを確認する。委員の先生方も気になるものがあつたら御意見いただきたい。

□NEXT 追跡評価報告書について

小原委員 : ライフイベントの箇所について、産休・育休を年度をまたいで取得したら人を雇えないという意見があつたが、一人の意見なのか、複数の意見なのか。

事務局 : ヒアリングで意見としてあつたが、複数の意見があるのかは確認する。

秋永委員 : 今後の施策に当たって留意すべき視点として、FIRST・NEXT共通の視点として柔軟性・自由度の確保とあるが、これはFIRST・NEXTで機能したから今後もそうしていくべきだという主張になるのか、何か不備なところがあつたからもっと広げていくべきなのか。

事務局 : 両方ある。基金制度は、両報告書で大変良かったという研究者からの声が多く、他の事業にも普及していくべきという提言になっている。他方、基金とはいえ使用期限が決まっているので、その使用期間が短い、もしくはテーマが狭かったりという視点では、自由度や柔軟性がなかったという反省がある。また、ライフイベントに対応していない、若しくは災害による研究の遅延等の予期しない事態に対しての柔軟性がなかったという課題もあつた。これらの問題意識から柔軟性・自由度の確保を指摘しているものもある。

小原委員 : FIRSTの場合は、いわゆる基礎研究というのも大事にしていた。基礎研究だけやつたという人もいたが、これも重要だと思う。分野によっては、大きな基礎がなかったら拓かないものもあるので、基礎研究は当然、国際的にトップ水準でなかったら意味がないというのが前提で報告書を作成しているのか。基礎研究に関してはアウトリーチだけ書いてあって、これはこれで重要だが、それは前提であるという理解で良いか。

事務局 : 基礎研究・科学的知見の創出と社会実装の、大きく二つの柱がある。基礎研究の方に関しても、国際的にトップ水準であつたことがわかるように修正する。

小原委員 : コロナウイルスに関する研究でも早く実用化すべきで、基礎研究は本当に大事だつたということが分かってきた。なので、こうした大きな基礎研究も国として進めるべきだと思うので、基礎研究も重要というメッセージがあつて良いと思う。

事務局 : ご指摘いただいた点について修正する。特にアウトリーチのところ、追跡調査により分かってきたこと中心に記載したが、そのベースとなる基礎研究力に関しても記載する。

小原委員 : 是非お願いしたい。

須藤委員：FIRST、NEXTといういわゆる基礎研究に分類されるようなプロジェクトがあって、その後ImPACTがあって、それを受けて内閣府の基礎研究の今後の施策としてどうすべきかということがここから導出されるべき。

須藤委員：本日の有識者のご意見を踏まえ、事務局の方で見直していただきたい。

事務局：承知した。

須藤委員：それでは議論を終了する。御意見を踏まえて、修正を加えて報告書として固めるということが良いか。

(委員一同、了解)

事務局：本日頂いた御意見を反映させて、報告書案を仕上げる。今後は、革新的研究開発推進会議を経て、CSTI会合で決定していくので、また改めて進捗状況等を御報告、御連絡させていただく。

須藤委員：それでは閉会する。活発な議論に感謝する。